5×緑 GOBAI MIDORI の学校 2017

地域 × デザインマインド

2017.4.8 - 10.21（全 6 回）/ 全講座募集開始 2017.3.27

株式会社 ゴバイミドリ

http://www.5baimidori.com/　e-mail:mail@5baimidori.com

ここ何年か、地方・地域のプロジェクトの方が、
都市のそれより「断然オモシロイ！」と感じています。
仕組みや構造ができあがってしまった大きな都市の仕事より、
自由で闊達、しなやかで健やか —— そんな印象を受けるのです。

2015 年、本来アートに対して贈られるはずの英国のターナー賞が、
建築家集団「アセンブル」に与えられました。
受賞の対象になったのは、
リバプールのグランビー・フォー・ストリーツの地域住民と取り組んだプロジェクトでした。

見えてくるのは「市民的公共性」の復権。
そうした価値観は今、小さなコミュニティの方が発現しやすいのかもしれません。

「形をつくる」だけではない、社会的活動への志向がデザインの可能性を広げ、
プロジェクトを面白くバージョンアップさせるのではないでしょうか。

というわけで、「5× 緑の学校 2017」は、地方のプロジェクトに焦点をあてながら、
そのあたりをみなさまと探ってみたい。。。と目論んでいます。

2017 年 3 月
5× 緑　宮田生美

「5× 緑の学校」2017　地域 × デザインマインド

・受講料　3,000 円

・時間　13：30 開場（時間のある方は、 講座が始まるまでテラスの緑を眺めながらお過ごしください）
講座　14：00 ～ 17：00
＊ 7 月 1 日の実践講座「在来種混植の剪定と手入れ」は、
10：30-12：00 と 14：00-15：30 の 2 講座となります。

・場所　新宿区市谷仲之町 2-10　合羽坂テラス 2 号室 「合羽坂教室」

・定員　33 名
＊ 7 月 1 日の実践講座は、 午前・午後各 10 名

・お申込み　下記からお申し込みください。
http://peatix.com/event/245585

・3 月 27 日より全講座同時に受け付けいたします。

・遠野ツアーは、 料金、 定員とも別になります。
詳しくは 4 ページをご覧ください。
・遠野ツアー参加ご希望の方は、 下記をご記入の上、
お名前 / ご住所 / ご連絡先 Tel & Mail / 性別
event@5baimidori.com へお申し込みください。

※定員に達し次第締め切らせていただきます。
※大変申しわけありませんが、 お支払い後のキャンセルは承れません。 ご了承ください。

講座予定

●第 1 回	4/8（土）	「遠野クイーンズメドウ・カントリーハウス」と「遠野オフキャンパス」 話し手　：　田瀬理夫さん（ランドスケープデザイナー） 安宅研太郎さん（建築家）
●第 2 回	5/13（土）	「里山住宅博 in 神戸」の新しい試み 話し手　：　田瀬理夫さん（ランドスケープデザイナー）
●第 3 回	6/23（金） 〜 6/25（日）	田瀬理夫さん、西村佳哲さんと過ごす遠野ツアー ・クイーンズメドウ・カントリーハウス滞在 ・対談「『ひとの居場所をつくる』出版から 3 年」 ・「三田屋オフキャンパス」見学、など
●実践講座	7/1（土）	在来種混植の手入れと剪定 講師：田瀬理夫さん（ランドスケープデザイナー） ・実際に合羽坂テラスの植物の剪定をしながら、手入れの考え方や方法を学びます。
●第 4 回	9/30（土）	生きるように働く「日本仕事百貨」からみえる地方のプロジェクト 話し手　：　ナカムラ ケンタさん（日本仕事百貨代表 / 株式会社シゴトヒト代表取締役）
●第 5 回	10/21（土）	まちを将来世代につなぐ集合住宅設計（徳島 神山町）の千夜一夜 話し手　：　西村佳哲さん（プランニング・ディレクター）

第 1 回　4/8（土）　「遠野クイーンズメドウ・カントリーハウス」と「遠野オフキャンパス」

話し手　：　田瀬理夫さん（ランドスケープデザイナー）
　　安宅研太郎さん（建築家）

田瀬さんたちが 1999 年から取り組んできた岩手県のクイーンズメドウ・カントリーハウス（QMCH）。
ランドスケープの“設計”の領域を超えて、馬を飼い、田畑をつくり、実際に風景を生み出す仕事を続けています。
その QMCH のビジョンを基に始まった「遠野オフキャンパス」。
そのプログラムのひとつである「三田屋オフキャンパス」では、安宅さん中心に大学生や地元の高校生らが加わって、町家の保存と活用に取り組んでいます。
昨年からは「重要文化財千葉家住宅」とその周辺地域に対するプランニングもスタートさせました。
「形をつくる」だけではない 2 人の設計者の設計の進め方についてお話を聞きます。

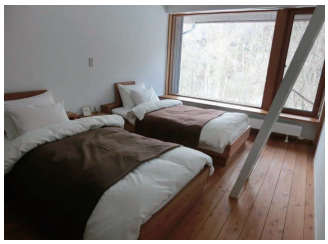
※6/23 – 6/25　遠野ツアーを行います。
　詳しくは次ページをご覧ください。

第 2 回　5/13（土）　「里山住宅博 in 神戸」の新しい試み

話し手　：　田瀬理夫さん（ランドスケープデザイナー）

2015 年に行った「田瀬理夫のランドスケープ」は 1 セミナー 1 プロジェクトで、設計のデティールや考え方をうかがいました。
今回はその住宅街区編。
北神戸に開発された 37 区画（第 1 期）の住宅開発。
外構デザインを統一し、地域の緑が家々をつなぐ街並みを実現させました。
コンクリートやカーポートの並ぶ「エクステリア」とは一線を画す取り組みです。
斜面地に面して買い手の見つからなかったフリンジの場所を「里山」をテーマに、地元の複数の工務店が共同で開発しました。
外構デザインだけでなく、事業の仕組みも新しいアイディアに満ちています。

第 3 回　6/23（金）～ 25（日）　田瀬理夫さん、西村佳哲さんと過ごす遠野ツアー



話し手　：　田瀬理夫さん（ランドスケープデザイナー）
　　西村佳哲さん（プランニング・ディレクター）

田瀬さんのインタビューをまとめた西村さんの著書「ひとの居場所をつくる」（筑摩書房）出版から 3 年。
本の舞台のひとつにもなった岩手県遠野のクイーンズメドウ・カントリーハウスに滞在します。
ゆったりとした時間と空間の中で、お二人の対談をじっくりと聞き、対話します。

■主なプログラム

・田瀬理夫さんと西村佳哲さん 対談
　――「ひとの居場所をつくる」出版から 3 年
・「三田屋オフキャンパス」見学
　4 月 8 に建築家の安宅研太郎さんにお話しいただいた「三田屋」を見に行きます。
　かつて最も大きな商家のひとつであった旧呉服屋「三田屋」を大学生や遠野の高校生、地元行政職員が協働して保存と活用に取り組んでいます。
・荒川高原　馬とランチボックス
　馬の放牧されている荒川高原で馬と遊び、車座になって話したり、ランチをしたり。
　遠野らしい風景と時間をみんなで楽しみましょう。
・早池峰神楽
　神楽衆を招いて、舞を披露してもらいます。
　遠野の人と風土に触れてください。

ツアー参加費　お 1 人　63,000 円
　2 泊、食事、アクティビティ共
　＊遠野までの往復の交通費は含みません。
定員　13 名
　＊詳しい旅程につきましては、以下にお問い合わせください。
　event@5baimidori.com

西村さんからひと言

こんにちは、西村佳哲です。
『ひとの居場所をつくる』（筑摩書房 2013）が出版されて、間もなく、田瀬さんを始めとする「ノース」のメンバーは、事業のあり方の抜本的な見直しに着手しました。

その結果もともと「泊まれるんだか泊まれないんだかいまひとつわからない」謎めいた存在感を示していたクイーンズメドウ・カントリーハウス（QMCH）は、宿泊事業を一時的に休止して、より一層訪れにくい場所に。

僕も訪ねる機会をつくれず残念に思っていたのですが、いよいよその季節が終了！
こうしてワークショップを、しかも田瀬さんと現地で開催できることになり、雪解けを迎えた気分です。春が来ました。

ぜひご一緒して、いまの遠野、いまのクイーンズメドウ、いまの馬、木立や畑や山々、そして最新最前線の田瀬理夫さんとすごす時間を、わかちあいたいと思います。
遠野でお会いしましょう。

実践講座　7/1（土）　在来種混植の手入れと剪定

講師　：　田瀬理夫さん（ランドスケープデザイナー）

「5×緑の学校」の会場になっている合羽坂テラスには 5×緑のユニットが並び、約 150 種類の植物が植わっています。
「野にあるものは野にあるように—」。
どうすればそんな手入れができるのでしょう。
田瀬さんはお隣の草木の調子を見ながら、その時々の見どころをつくっていく——と言います。
それは、一律に刈り込む最近よくある剪定の仕方とは、全く違う発想です。
管理＝手間、コストではなく、手入れ＝楽しみ、豊か。
そんな感覚を共有できる時間になれば、と思います。

第 4 回　9/30（土）　生きるように働く「日本仕事百貨」からみえる地方のプロジェクト

話し手　：　ナカムラ ケンタさん（日本仕事百貨代表
/ 株式会社シゴトヒト代表取締役）

ナカムラ ケンタさんの企画、運営する「生きるように働く人の求人サイト『日本仕事百貨』」。
そこには今、地方の面白いプロジェクトを手がける会社があふれています。
たとえば愛媛県今治市のタオル屋さん、新潟県長岡市から「地域おこし協力隊」の募集、「人の間に生まれるもの」をテーマにコミュニティづくりに取り組む会社などなど。
ナカムラさん自身も清澄白河で「しごとバ—」（写真）という連続企画のイベントを開いています。
ナカムラさんには、日本各地の面白い、楽しいプロジェクトの紹介や、そうした動きが起きている背景、移住や 2 拠点居住を始めている人々の思い——などについてお話を聞きたいと思います。

第５回　10/21（土）　まちを将来世代につなぐ集合住宅設計（徳島 神山町）の千夜一夜

話し手　：　西村佳哲さん（プランニング・ディレクター）

徳島県に神山町という中山間地域があり､そこで全 20 戸(8 棟)＋文化施設からなる集合住宅プロジェクトが進んでいます。建築は山田貴宏さん（ビオフォルム環境デザイン室)、ランドスケープ・デザインは田瀬理夫さん（プランタゴ)、まとめ役は『ひとの居場所をつくる』著者の西村佳哲さん（神山つなぐ公社)。
第一期の竣工は、2018 年初夏の予定。その後も 2020 年まで三期にわけて、少しづつ工事をつづけるこのプロジェクトは、すべてを一気に完成させないことで、地域外の大きな工務店でなくその町の大工さんたちが町の山の木でつくること。町の農業高校の生徒さんたちが、近くの山で採った種や実生を育て、時間をかけて緑地を形づくってゆくなどのプロセスを実現しつつあります。
西村さんが神山町や、田瀬さんとの協働を通じて考えている事々をうかがってみましょう。
(写真はインターネットの告知をきっかけにプロジェクトに参画した３名の若手女子設計メンバー。2017 年初夏から神山に移り住み、設計監理に取り組む予定)

講師プロフィール

■田瀬理夫さん

プランタゴ代表。造園家。1949 年東京都生まれ '73 年千葉大学園芸学部造園学科(都市計画・造園史専攻）卒業。'73 ～'77（株）富士植木勤務。'77 年ワークショップ・プランタゴを開設。'77 ～'86 年 SUM 建築研究所の一連の集合住宅計画に参加、 '90 年～(株)プランタゴ代表、'08 年より農業生産法人ノース代表を兼務。主な仕事:コートハウス国立、アクロス福岡、Bios の丘、地球のたまご、現代町家、味の素スタジアム西競技場、クイーンズ・メドウ・カントリーハウス（QMCH）馬付住宅プロジェクトなど。

※QMCH のプロジェクトについては、田瀬さんのインタビューをまとめた本「ひとの居場所をつくる」（西村佳哲氏著　筑摩書房）に詳しい。

■安宅研太郎さん

建築家。1974 年埼玉県生れ。1998 年東京芸術大学建築科卒業、2001 年同大学大学院修了後、2006 年まで同大学非常勤助手。2003 年にアタカケンタロウ建築計画事務所を設立し、住宅から集合住宅、研修施設、幼稚園、パブリックアートまで様々なプロジェクトを手掛ける。2007 年東京建築士会住宅建築賞（タカハギハウス）、2011 年、2013 年日本建築学会作品選奨（シャノアール研修センター（2011 年）、狭山ひかり幼稚園（2013 年））受賞。2015 年株式会社パトラックを設立し代表取締役に就任。2016 年より農業生産法人株式会社ノース取締役を兼任。現在、芝浦工業大学、京都造形芸術大学、武蔵野大学、東京電機大学で非常勤講師を勤めるほか、2012 年に岩手県遠野市で「遠野オフキャンパス」を立ち上げ、高校生や大学生、研究者、専門家とともに、遠野の様々なテーマについて、リサーチと実践的な活動を行っている。

■ナカムラ ケンタさん

日本仕事百貨代表／株式会社シゴトヒト代表取締役
1979 年東京生まれ。生きるように働く人の求人サイト「日本仕事百貨」を企画運営。シゴトヒト文庫ディレクター、グッドデザイン賞審査員などを務め、東京・清澄白河に小さなまちをつくるプロジェクト「リトルトーキョー」や「しごとバー」の企画・デザインを監修。誰もが映画を上映できる仕組み「popcorn」を 2016 年 12 月 1 日にスタート。著書「シゴトとヒトの間を考える（シゴトヒト文庫）」。

■西村佳哲さん

1964 年東京生まれ。武蔵野美術大学卒。リビングワールド代表。神山つなぐ公社理事。デザイン・プロジェクトの企画立案とチームづくり、ディレクションや、ファシリテーター役を担うことが多い。著書に『自分の仕事をつくる』『かかわり方のまなび方』（ちくま文庫）など。2014 年から四国、東京、どこか（出張先）の多拠点生活で、おもには神山町にいる。
https://twitter.com/lwnish